

# 令和6年度 自己評価結果報告書

社会福祉法人ゆうゆう 認定こども園 すみよし愛児園

## 1. 本園の教育・保育目標

当園では理念として『素朴に丁寧に純真に忍耐強く、子どもを軸として連動する絆を結び、未来社会への人づくり、国づくりの基礎(基盤)力を育む』を掲げています。また、教育保育目標として、目指す乳幼児像は次の3項目になります。

- 1、思いやりのある子ども      2、意欲のある子ども      3、生活の中での決まりの守れる子ども

## 2. 重点的に取り組んだ目標・評価

こどもの主体性、保育の質の向上という課題について職員で取り組んできた。研修制度だけでなく、園内の環境も見直していく体制を作り、継続的に取り組めるようにした。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
特色を生かした保育を計画し、実践していく。また、評価反省を行う中で、子ども達の情緒が安定し、自己発揮できるような保育を目指していく。	遊びや生活面において、子ども自身が自分で選ぶ、自分で決めていくことを大切に日々を過ごすようにした。職員間で連携をとり、一人ひとりの想いに寄り添い、子どもたちの願いはどこにあるのかということ振り返っていくようにした。
認定こども園としての専門性を保育者一人ひとりが理解し、教育保育の質の向上を図るため、園内研修を充実させるとともに外部の研修にも参加する。	職員間の情報共有と検討体制を見直してきた。昨年度と同様に法人内研修の活用、園内研修やケース会議の充実を図るよう行ってきた。
日々の健康観察や疾病予防のための取組み、衛生管理等を行い、子ども達が安全で安心な生活が送れるよう努めていく。	看護師による日々の健康観察や保健指導は継続的に行っている。また、看護師自身も子どもたち一人ひとりに丁寧な関わりを行うことで、日々の中で安心できる存在となっている。

## 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今年度も引き続き園内研修、法人内の研修を通して、教育・保育の充実や自己研鑽に努めた。今ある環境を十分に活かした保育を行う為に何が出来るかという事を考え、園内で取り組んできた。今までの方法、保育にとらわれず目の前にいる子どもたちの本当の願い、想いを常に考え、寄り添う中で子どもたちが自己発揮し、やりたい・知りたいというような意欲を育むようにしてきた。

## 5. 今後取り組むべき課題

保育内容・保育環境の充実	認定こども園教育・保育要領の理解、教育保育計画・内容の検討、環境構成など職員間で理解を深め、より良い教育・保育が行える体制を充実させていく。常に保育のねらいを持ち、継続的に保育の質の向上を図っていく。
危機管理 (衛生管理・安全管理)	感染症や災害等への対策に対する知識や体制を共通理解となるようにしていく。子どもたちの生活を再度確認し、安全確認やできる対応を考え、安全に日々が送れるようにしていく。
子育て支援への取り組み	保育教諭・栄養士・看護師などそれぞれの職種を生かしながら、在園家庭はもちろん地域の子育て家庭に向けても必要な情報提供や相談などを支援センターとも協力し、安心して子育てが行なえるような地域づくりに努めていく。 また、地域の保健師とも連携し情報共有を行っていく。

## 6. 学校関係者の評価

保育参加という形で子どもたちの日常を知る機会があり、先生達がどのように日々関わっているかなどを知ることができ良かったと思う。子どもたちがのびのびとしていて、やりたい事を十分に楽しんでいる姿が見られる。保育教諭だけでなく職員みんなが一人ひとりを理解し関わろうとしてくれている。

# 令和6年度 自己評価結果報告書

社会福祉法人ゆうゆう 認定こども園 すみよし愛児園

## 1. 本園の教育・保育目標

当園では理念として『素朴に丁寧に純真に忍耐強く、子どもを軸として連動する絆を結び、未来社会への人づくり、国づくりの基礎(基盤)力を育む』を掲げています。また、教育保育目標として、目指す乳幼児像は次の3項目になります。

- 1、思いやりのある子ども      2、意欲のある子ども      3、生活の中での決まりの守れる子ども

## 2. 重点的に取り組んだ目標・評価

こどもの主体性、保育の質の向上という課題について職員で取り組んできた。研修制度だけでなく、園内の環境も見直していく体制を作り、継続的に取り組めるようにした。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
特色を生かした保育を計画し、実践していく。また、評価反省を行う中で、子ども達の情緒が安定し、自己発揮できるような保育を目指していく。	遊びや生活面において、こども自身が自分で選ぶ、自分で決めていくことを大切に日々を過ごすようにした。職員間で連携をとり、一人ひとりの想いに寄り添い、こどもたちの願いはどこにあるのかということ振り返っていくようにした。
認定こども園としての専門性を保育者一人ひとりが理解し、教育保育の質の向上を図るため、園内研修を充実させるとともに外部の研修にも参加する。	職員間の情報共有と検討体制を見直してきた。昨年度と同様に法人内研修の活用、園内研修やケース会議の充実を図るように行ってきた。
日々の健康観察や疾病予防のための取組み、衛生管理等を行い、子ども達が安全で安心な生活が送れるよう努めていく。	看護師による日々の健康観察や保健指導は継続的に行っている。また、看護師自身もこどもたち一人ひとりに丁寧な関わりを行うことで、日々の中で安心できる存在となっている。

## 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今年度も引き続き園内研修、法人内の研修を通して、教育・保育の充実や自己研鑽に努めた。今ある環境を十分に活かした保育を行う為に何が出来るかという事を考え、園内で取り組んできた。今までの方法、保育にとらわれず目の前にいるこどもたちの本当の願い、想いを常に考え、寄り添う中でこどもたちが自己発揮し、やりたい・知りたいというような意欲を育むようにしてきた。

## 5. 今後取り組むべき課題

保育内容・保育環境の充実	認定こども園教育・保育要領の理解、教育保育計画・内容の検討、環境構成など職員間で理解を深め、より良い教育・保育が行える体制を充実させていく。常に保育のねらいを持ち、継続的に保育の質の向上を図っていく。
危機管理 (衛生管理・安全管理)	感染症や災害等への対策に対する知識や体制を共通理解となるようにしていく。こどもたちの生活を再度確認し、安全確認やできる対応を考え、安全に日々が送れるようにしていく。
子育て支援への取り組み	保育教諭・栄養士・看護師などそれぞれの職種を生かしながら、在園家庭はもちろん地域の子育て家庭に向けても必要な情報提供や相談などを支援センターとも協力し、安心して子育てが行なえるような地域づくりに努めていく。 また、地域の保健師とも連携し情報共有を行っていく。

## 6. 学校関係者の評価

職員の関りが丁寧で一人ひとりとの時間を大切に保育を行っている。生活を見ていると、こどもたちが困るような場面がなく、生活を自分たちで行っている姿が見られるが、日々の繰り返しの中でこのような姿ができてきていると感じる。個々の興味に合わせた保育は職員間の連携も重要になってくるので、今後も継続して行って欲しい。

# 令和6年度 自己評価結果報告書

社会福祉法人ゆうゆう 認定こども園 すみよし愛児園

## 1. 本園の教育・保育目標

当園では理念として『素朴に丁寧に純真に忍耐強く、子どもを軸として連動する絆を結び、未来社会への人づくり、国づくりの基礎(基盤)力を育む』を掲げています。また、教育保育目標として、目指す乳幼児像は次の3項目になります。

- 1、思いやりのある子ども      2、意欲のある子ども      3、生活の中での決まりの守れる子ども

## 2. 重点的に取り組んだ目標・評価

こどもの主体性、保育の質の向上という課題について職員で取り組んできた。研修制度だけでなく、園内の環境も見直していく体制を作り、継続的に取り組めるようにした。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
特色を生かした保育を計画し、実践していく。また、評価反省を行う中で、子ども達の情緒が安定し、自己発揮できるような保育を目指していく。	遊びや生活面において、こども自身が自分で選ぶ、自分で決めていくことを大切に日々を過ごすようにした。職員間で連携をとり、一人ひとりの想いに寄り添い、こどもたちの願いはどこにあるのかということ振り返っていくようにした。
認定こども園としての専門性を保育者一人ひとりが理解し、教育保育の質の向上を図るため、園内研修を充実させるとともに外部の研修にも参加する。	職員間の情報共有と検討体制を見直してきた。昨年度と同様に法人内研修の活用、園内研修やケース会議の充実を図るように行ってきた。
日々の健康観察や疾病予防のための取組み、衛生管理等を行い、子ども達が安全で安心な生活が送れるよう努めていく。	看護師による日々の健康観察や保健指導は継続的に行っている。また、看護師自身もこどもたち一人ひとりに丁寧な関わりを行うことで、日々の中で安心できる存在となっている。

## 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今年度も引き続き園内研修、法人内の研修を通して、教育・保育の充実や自己研鑽に努めた。今ある環境を十分に活かした保育を行う為に何が出来るかという事を考え、園内で取り組んできた。今までの方法、保育にとらわれず目の前にいるこどもたちの本当の願い、想いを常に考え、寄り添う中でこどもたちが自己発揮し、やりたい・知りたいというような意欲を育むようにしてきた。

## 5. 今後取り組むべき課題

保育内容・保育環境の充実	認定こども園教育・保育要領の理解、教育保育計画・内容の検討、環境構成など職員間で理解を深め、より良い教育・保育が行える体制を充実させていく。常に保育のねらいを持ち、継続的に保育の質の向上を図っていく。
危機管理 (衛生管理・安全管理)	感染症や災害等への対策に対する知識や体制を共通理解となるようにしていく。こどもたちの生活を再度確認し、安全確認やできる対応を考え、安全に日々が送れるようにしていく。
子育て支援への取り組み	保育教諭・栄養士・看護師などそれぞれの職種を生かしながら、在園家庭はもちろん地域の子育て家庭に向けても必要な情報提供や相談などを支援センターとも協力し、安心して子育てが行なえるような地域づくりに努めていく。 また、地域の保健師とも連携し情報共有を行っていく。

## 6. 学校関係者の評価

園内の環境構成を変えていく仕組みなど職員で話し合い、高めていこうという姿勢が感じられる。研修も定期的に行っており、職員で共通認識する場、お互いの考えやこどもへの見方を知る機会がある中で、今後も保育の質が向上していくことを期待したい。この乳幼児期にどんな関わりが必要か、どんな環境が必要かという事を保護者にも発信し、共に保育を作っていってほしい。